

アソカ講話 062

テーマ「私達の施設の原型 ④・・・褒め言葉の贈り物」

ある方から望外の褒め言葉を頂いた。とてもうれしかった。なぜなら、そうありたいと思いつけていた姿を私の印象として表現してくれたからだ。

その褒め言葉とは、「凜として透明感があり、純粹、そして聡明」という言葉である。実際の自分は褒め言葉ほど素晴らしくはないが、それでも心から嬉しく思ったのは、そう生きたいと切に願い生きてきたからだ。

今までの人生の中で、曲がりそうになる、いや曲がってしまったこともある。何度転んでも、曲がっても、やっぱりまっすぐ生きたいと思う気持ちだけはあきらめなかったように思う。

人は褒められることで育つ。豊かに認められることで、自己肯定感が育まれる。互いに認め合い、褒めあえることがどれだけ人生を豊かにするか、人生を意味ある・価値あるものとして捉えることができるようになるか、その効果は計り知れない。

陽だまりでは、「褒め言葉運動」が始められていると聴いた。とてもうれしく、素晴らしいことだと感動した。全事業所で取り組み、「褒め言葉運動」が私達の施設の原型となることを願ってやまない。